

第4学年 社会科 学習指導案

1. 単元名『福島潟をつくる』

(教科書：『小学社会3・4下』p.84～101／学習指導要領：内容(5)ウ)

2. 単元の目標

福島潟周辺では、洪水の被害を受けずに安定した稲作や生活ができるように、昔から人々が努力や工夫を重ねてきたこと、そのおかげで安心して生活することができるようになったことを捉えさせる。

3. 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
福島潟の干拓の様子に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。また、これからの地域社会の発展について、関心をもって考えようとしている。	水害に苦しんだ人々の願いや干拓に携わってきた人々の努力と生活の向上などを関連づけて考え、表現することができる。	地域の博物館で干拓に使った道具を観察したり、潟の面積の移り変わりなどを調べたりして、福島潟の干拓に取り組んだ先人の働きについて必要な情報を集め、読み取っている。	現在、洪水の心配がなく生活ができるのは、先人の努力や工夫のおかげであることや、その努力は今も続いていることを理解することができる。

4. 指導にあたって

(1) 児童の実態

本学級の児童にとって福島潟は校区にある広い沼地で、菜の花の絵を描きに出掛けたり、水生動物を観察したりする身近な場所である。しかし、以前は広大な面積であったことや、周辺地域が洪水の被害に遭ったことを知る児童はほとんどいない。そこで、本単元の導入では、昔と今の福島潟の広さを絵地図で比較させたり、自分たちの通う学校が以前は福島潟の水の中にあったことを提示したりして、疑問点を引き出し、追究意欲を高めることが重要であると考えている。

(2) 教材について

福島潟は400年ほど前から干拓が行われてきた。この干拓は他地域の事例と同様に多くの人々の努力と工夫によって行われ、その結果、広大な面積の田畑が作られ農業が盛んな地域に変わった。また、周辺地域は低地のため、水害の被害を受けやすかったが、排水機場や放水路がつくられ、人々は安心して生活することができるようになってきた。しかし、せっかく干拓してできた農地を掘削して水面を拡張しようとする計画が出された。この事実を児童に提示し、理由を考えさせることで、安全なまちづくりへの取り組みは現在も続いていることを捉えさせていきたい。

(3) 指導上の工夫・留意点

本単元は、福島潟干拓の移り変わりに伴う土地の広がり与人々の生活の変化を捉えさせて、先人の業績に気づかせる必要がある。そこで、干拓の時期ごとに広がった土地を色分けして提示して農作業との関連を考えさせたり、水害年表を提示して干拓事業の効果を読み取らせたりするようにする。また、昔の稲作の大変さを理解できるように映像資料を視聴したり、実際に農作業を行った方の話を聞いたりする場面を設定する。

5. 単元の指導計画（総時数 14 時間）

時	ねらい	○学習活動 ・内容	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
① （つかむ）	昔と今の福島潟の大きさの違いを知り、小さくなった理由を調べる意欲をもつ。	<p>○現在の福島潟の広さを捉える。</p> <p>○昔の福島潟の広さと比較する。</p> <p>・昔の福島潟はとても広く、学校は福島潟の中にあった。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>どうして福島潟はこんなに小さくなってしまったのだろう。</p> </div> <p>・水をどこかに流したから。</p> <p>・土を埋めて狭くしたから。</p> <p>○自分の予想を立て、ノートに記入する。</p> <p>・土地のことで何か困ることがあって、福島潟を埋めたので小さくなった。</p>	<p>◎絵地図（現在と約 250 年前の福島潟の広さがわかるもの）</p> <p>◇現在の地図に昔の地図を重ねて提示する。</p> <p>◆福島潟が小さくなった理由について、自分なりの予想を立てている。 （関・意・態／発言・ノート）</p>
② （調べる）	福島潟の地形の特徴を捉える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>福島潟は、どんな土地になっているのだろう。</p> </div> <p>○福島潟付近の土地の高低図に色を塗り、土地の高さを調べる。</p> <p>・福島潟の高さが 0 m しかなく低い。</p> <p>・鍋の底のようで水がたまりやすい土地。</p>	<p>◎福島潟付近の土地の高低図</p> <p>◎福島潟付近の断面図</p> <p>◆福島潟に向かって土地が低くなっていることを理解している。 （知・理／ノート）</p>
③ （調べる）	福島潟近辺に暮らす人々の生活の様子を調べ、人々の願いを捉える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>福島潟のそばにくらす人々は、どんな生活をしていたのだろう。</p> </div> <p>○昔の稲作の様子を知る。</p> <p>・腰まで水に浸かって米作りをした。</p> <p>・水害に遭い、米作りが大変だった。</p> <p>・人々は米作りが大変だったり、水害に苦しんだりしたので、福島潟を埋め立てようと考えた。</p>	<p>◎DVD『芦沼』</p> <p>◎水害年表</p> <p>◎羽越水害の写真</p> <p>◆昔の人々は、地形や水害のため米作りが大変だったこと、そのため福島潟を埋め立てようとしたことを理解している。（知・理／ノート）</p>

④ (調べる)	400 年前の埋め立てと阿賀野川の切り落としの苦労・工夫・努力を捉える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> どのようにして、福島潟をうめ立ててきたのだろう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○工事の様子を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・かかった費用，人数，期間など ○工事の成果を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・埋め立てられた土地の広さ ・新江用水と水を引けるようになった広さ 	<ul style="list-style-type: none"> ◎干拓年表と福島潟の埋め立て面積の推移図（絵地図） ◎新潟市作成副読本 ◇④時で活用した絵地図に⑤時以降の埋め立ての様子を加えていき，広さの推移がわかるように配慮する。 ◆埋め立て工事の苦労や努力を理解している。 (知・理／ノート)
⑤ (調べる)	山本丈右衛門と水原の十三人衆や新発田藩による埋め立ての苦労・努力を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> ○工事の様子を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・かかった費用，人数，期間など ○工事の成果を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・埋め立てられた土地の広さ 	<ul style="list-style-type: none"> ◎干拓年表と福島潟の埋め立て面積の推移図 ◎新潟市作成副読本 ◆埋め立て工事の苦労や努力を理解している。 (知・理／ノート)
⑥ (調べる)	市島家による埋め立ての様子と新井郷川排水機場建設の効果を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> ○工事の様子を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・かかった費用，人数，期間など ○工事の成果を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・埋め立てられた土地の広さ ・水田が湿田から乾田に変化 	<ul style="list-style-type: none"> ◎干拓年表と福島潟の埋め立て面積の推移図 ◎新潟市作成副読本 ◆埋め立て工事の苦労や努力を理解している。 (知・理／ノート)
⑦ (調べる)	国営干拓工事の様子と効果を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> ○工事の様子を調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・かかった費用，人数，期間など ○工事の成果を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・埋め立てられた土地の広さ 	<ul style="list-style-type: none"> ◎干拓年表と福島潟の埋め立て面積の推移図 ◎新潟市作成副読本 ◆埋め立て工事の苦労や努力を理解している。 (知・理／ノート)
⑧ ⑨ ⑩ (調べる)	乾田化と，農作業で使う道具や作業時間との関係を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○豊栄博物館に見学に行き，埋め立て工事や農作業に用いた用具を観察する。 ○10 a の米作りに必要な作業内容と作業時間を比較する。 ・乾田化により大型機械を使って農作業ができるようになり，作業時間が6分の1に減った。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎豊栄博物館展示の農具 ◎農作業で使う道具の写真と作業内容別にかかる時間の表（昭和 36 年と現在） ◆写真と表を関連づけて，作業時間の変化を読み取っている。 (技／ノート)

<p>⑪ 調べる</p>	<p>福島潟放水路が建設された理由を考える。</p>	<p>○福島潟放水路が建設された理由について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新井郷川排水機場が新しく建設されて水がたまる心配が少なくなったはず。 ・他に困ることがあったのだろうか。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>排水機場が新しくできたのに、なぜ福島潟放水路がつけられたのだろう。</p> </div> <p>○平成 10 年 8 月の水害写真を見て、被害状況を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの町が水に浸かって大変だった。 ・国営干拓地が水に浸かった。 ・福島潟にたまった水を早く日本海に流し、水害が発生しないようにするために、放水路がつけられることになった。 	<p>◎平成 10 年水害写真</p> <p>◇被災した市民の願いとして事前に聞いておいた保護者のインタビュー内容を知らせる。</p> <p>◆水害から町や自分たちの生活を守るために、放水路が新たにつけられたことを理解している。 (知・理／ノート)</p>
<p>⑫ まとめる 【本時】</p>	<p>福島潟の農地を掘削する理由を考える。</p>	<p>○新聞記事を提示し、内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せっかく埋め立ててできた土地をけずって、水面を広げようとしている。 ・今年からその工事が始まるようだ。 <p>○福島潟の農地を掘削して水面を広げる理由について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また何か困ったことがあったのかな。 ・福島潟に来る鳥たちがゆっくりと休むことができるようにするためかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>人々が努力をしてかんたくしてきたのに、なぜ、農地をけずって、水面を広げようとしているのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・人々が水害の心配をしないで、これからも安心してくらすことができるようにするために、農地をけずって水面を広げようとしている。 	<p>◎福島潟の農地掘削と水面拡張工事を知らせる新聞記事</p> <p>◇新聞記事はルビをふり、難しい用語は説明を加える。</p> <p>◎平成 23 年新潟・福島豪雨の被害写真</p> <p>◎ゲストティーチャー（ビュー福島潟館長）の話</p> <p>◆友達との話し合いやゲストティーチャーの話をもとにして、福島潟を掘削する理由を考え、ノートにまとめている。 (思・判・表／ノート)</p>

<p>⑬ ⑭ (深める)</p>	<p>福島潟のそばにくらす住民として、自分たちにできることはないか考える。</p>	<p>○水害を少なくするために、自分たちができることを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>地いきを水害から守るために、自分たちにできることはないか話し合おう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・川や福島潟などにごみを捨てないで水がきちんと流れるようにする。 ・側溝のふたの上をいつもきれいにしておいて水が流れるようにする。 ・福島潟掘削の目的を家の人たちにも伝え、感謝の気持ちをもってもらう。 	<p>◎新潟地域振興局の方からの手紙</p> <p>◆自分と福島潟との関わり方について考えている。 (思・判・表／ノート)</p>
--------------------------	---	---	---

6. 本時の指導 (第 12 時)

(1) 本時のねらい

福島潟の農地を掘削する理由を話し合ったり、ゲストティーチャーから掘削する背景を教えてもらったりして、地域の人々の安全・安心な生活を守る活動が現在も続いていることに気づくことができる。

(2) 本時の展開

時配	○学習活動 T: 発問 C: 児童の反応	◎使う資料 ◇留意点 ◆評価
10	<p>○新聞記事を読み、内容を確認する。</p> <p>T: みなさんにぜひ読んでほしい新聞記事を用意しました。声に出して読んでみましょう。</p> <p>C: 農地をけずろうとしている。</p> <p>C: 水面を広げると何かいいことがあるのかな。</p> <p>C: せっかく埋め立ててきたのに、どうしてけずるの。</p> <p>C: また困ったことが起きているのではないかな。</p> <p>T: 福島潟を埋め立ててできた農地をけずろうとしているようですが、どうしてだと思いませんか。予想してみましょう。</p> <p>C: 福島潟には多くの鳥たちがいるので、その鳥たちが休むことができるようにするため。</p> <p>C: 実は福島潟の水が足りなくて、農家が困っているから。</p> <p>C: 福島潟を広くしてもっと観光客に来てほしいから。</p> <p>T: それでは、今日は福島潟の農地を掘削する理由について考えてみましょう。</p>	<p>◎新聞記事 新潟日報 (H24.6.23)</p> <p>◇未習の漢字や難語にはルビをふって提示する。</p>

<p>20</p>	<p>○福島潟の農地を掘削する理由について話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>人々が努力をしてかんとくしてきたのに、なぜ、農地をけずって、水面を広げようとしているのだろう。</p> </div> <p>T：農地をけずると福島潟はどうなりますか。 C：今よりも広くなる。 C：水がたまっている部分が広がる。 T：そうすると何かいいことがあるのでしょうか。 C：オオヒシクイや白鳥などのすみかが増える。 C：魚たちが泳ぐ場所が広がって魚が喜ぶ。 C：動物たちのために、わざわざけずろうとしているのはおかしいと思う。 C：埋め立ててきたのは、人々のためだったのだから、今度も人々のためだと思う。 T：動物にとっていいことがありますか、人のためにも何かいいことはありますか。 C：水を見ると心が落ち着く。 C：そんなことのために農地をけずる必要はないと思う。 T：みなさん、この写真を見てください。 C：福島潟の写真だ。 C：水があふれ出ている。 T：これは平成23年7月に新潟市に大雨が降った時の写真です。福島潟に周辺の川の水が一気に流れてきて、水があふれ出してしまったのです。 C：まだ水害の心配があるのか。 T：この写真と農地をけずることに何かつながりはありそうですか。 C：福島潟の水があふれないように、福島潟を広げている。 C：福島潟の農地をけずると、水がたまる部分が増える。</p>	<p>◇農地掘削のよさを考えさせていく。</p> <p>◇動物にとってのよさに関する意見のみが出された場合、人間の生活にとってのよさという視点をもたせる。</p> <p>◎平成23年7月の新潟・福島豪雨時の写真</p>
<p>10</p>	<p>○ゲストティーチャーの話を聞いて、農地掘削の理由を確認する。</p> <p>T：みなさんなりの考えがまとまってきましたね。実は、みなさんの考えが正しいかどうかを確認するために、ゲストをお招きしています。 (ゲストティーチャーの話)</p> <p>C：新井郷川排水機場や福島潟放水路ができて、まだ水害の心配があるのか。 C：水害の心配が少なくなるように、わざわざ農地をけず</p>	<p>◇ビュー福島潟の館長から、事前打ち合わせに基づいて、掘削の理由を話していただく。</p> <p>◇ゲストティーチャーの話の要点をホワイトボードに書く。</p>

	<p>ろうとしているのか。</p> <p>C：農地をけずると水をためる部分が増えるから、道路などに水があふれ出す心配が少なくなるのがわかった。</p> <p>C：水生植物や水鳥たちがすみやすい場所にする目的もあるのがわかったぞ。</p>	
5	<p>○福島潟の農地をけずる理由をノートにまとめる。</p> <p>T：話し合いやビュー福島潟の館長さんの話をもとにして、福島潟の農地をけずる理由を、キーワードを使ってノートにまとめましょう。</p> <p>C：新井郷川排水機場や福島潟放水路ができて水害の心配がある。そこで、人々が水害の心配をしないで安心して過ごすことができるように、わざわざ福島潟の農地をけずることにした。このように、げんざいも水害をふせぐ努力をしている。</p> <p>C：わたしたちのくらす地いきは、げんざいも水害が起こることがあるので、しょう来大雨がふっても安心できるようにするため農地をけずるのです。人々の生活のことを考えてくれているので、助かります。</p>	<p>◇キーワード：「水害」「安心」「げんざい」</p> <p>◆友達との話し合いやゲストティーチャーの話をもとにして、福島潟を掘削する理由を考え、ノートにまとめている。 (思・判・表／ノート)</p>

7. 備考

子どもたちは新井郷川排水機場や福島潟放水路が建設されたことで、もう水害の心配はないと安心してた。しかし、そこで農地掘削の計画を提示し、約 400 年もの間、多くの人々が努力して干拓を進めてきたのに、それと逆のことをしようとしている事実を知ることによって、追究意欲を高めることができた。

また、その取り組みに関わっている方をゲストティーチャーに迎え、背景や効果を話してもらうことで、自分たちが考えた理由の妥当性を検証することができた。

キーワードを用いて学習のまとめを記述したが、年度当初から計画的に、このような活動を取り入れていないと短時間で記述することは困難である。また、キーワードは本時のねらいに迫ることができるものを考えているが、選定する言葉や数についてはいつも悩むところである。